

## コメント

著者	濱川 祐紀代
図書名	世界の漢字教育 : 日本語漢字をまなぶ : 国立国語研究所第8回NINJALフォーラム
ページ	64-67
発行年	2017-01-20
シリーズ	NINJALフォーラムシリーズ ; 6
URL	<a href="http://doi.org/10.15084/00000943">http://doi.org/10.15084/00000943</a>



今日のお話、すごく盛りだくさんでしたが、皆さんのくらい覚えておられるでしょうか。最初の先生がなにをお話しなさったか覚えているでしょうか。

私は普段、日本語教育の漢字をテーマに日々研究や指導をしていますので、とつても身近な問題ですが、はじめて聞く方にとっては情報が多くて混乱された方もいらっしゃるかもしれません。私のほうからは、先生方のお話を振り返って、私の印象に残ったことを一言ずつコメントさせていただこうと思います。

今回登壇した先生方の話は、テーマでもある日本語漢字をまなぶという観点からのお話でした。最初の開会挨拶で、国語研究所の影山所長は、外国人の日本語学習者がどのように漢字をまなぶかに興味があるということをお話しされました。その点について、私の覚えている範囲で少し振り返りたいと思います。

基調講演の加納先生のバーゲンの話、覚えていらつしやるでしょうか。学習者の心理面を考えて、「漢字の辞書には五万字あるけれども、二千字勉強すれば日本語をうまくなったといえる。しかも、五百字勉強すれば新聞の漢字の八〇パーセントがカバーできるらしいよ。だから、八〇パーセントでいいでしょう。まず、五百字を覚えませんか」というように、バーゲン方式で数字を下げていくという話でした。ここで気を付けなければいけないのは、オークション形式ではないということです。私たちは、ちよつと親切な先生を気取つて、少なめに五十字とか百字とか言つておき、学習者の気づかないうちに少しずつ増やしていくというのは、ちよつと詐欺商法に近いかもしれません。バーゲン方式はとてもインパクトがあつて、覚えておくとよいキーワードだと思いました。

台湾の林先生からは、漢字が母語表記であることから漢字の授業が用意されていないという話がありました。私は、「やっぱりね」と思ったのですが、それは必ずしも学ばなくてもよいということではなかったと思います。字体とか字形の違いに気づかない学習者がいることもわかりましたし、漢字が同じでも意味の幅が違うということもわ

かりました。例にでていたのは、気温の高さを表す「暑い」と、物の温度の高さを表す「熱い」です。音は同じですが、このような漢字の違いがだされていたと思います。

漢字圏の学習者にとっては、日本語は漢字を使うけれど、それは外国語だという認識をもって、漢字の字形や意味を確認してもらう必要がある、また、先生もそういう認識をもっている必要があるということを感じました。

フィリピンのフランチェスカ先生は、フィリピンの事情を最初にお話しされ、日本語能力が高くなれば、日本語を使った仕事に就けるという話をされました。そして、高くなればという高さの目安として、漢字が千字とか二千字という数字がでていました。そのレベルに達することがなかなか難しいということ、漢字学習への意欲、モチベーションが下がることで日本語学習をやめてしまう人もいるという報告があったのは少し残念でした。でも、学習者と教師のアンケートはともおもしろいと思いました。教師は、フィリピン人学習者は漢字学習に向いていないと悲観的に捉えていることがわかりましたが、学習者は前向きで、漢字は役に立つものだと思えることがわかりました。そして、教師と学習者が使っている学習方法に違いがあると示されていたことが、とてもおもしろいなあと思いました。

インドのプラシャント先生の、世界の文字や表記の話はとても興味深かったと思います。皆さん、どのくらいの文字をご存じでしたでしょうか。いまNHKの語学講座なんかでもいろいろな文字の紹介がされていますので、見たことはあるかもしれません。ちょっとことばは悪いのですが、グニャグニャとした文字があるのを考えると、「あつ、まだ漢字でよかったなあ」と思いました。

また、日本人も読めない漢字があるのだから、みんなも安心して、というご指摘もありました。先生という立場で前に立ったり、または親の立場で子どもの前に立っていたりしますと、できないことを隠すこともあるかもしれません。でも、できない部分がある、忘れた部分があるというのは、普通のことなのだろうと思います。私は漢字を覚えるのが苦手だったのですが、苦手なことが高じていま専門になっています。なので、学習者と一緒に学んでいくことも大切だろうと思いますし、私も大変苦労したんだ、一緒に勉強しましょうと、素直にいうことも大事なのかなあと思いました。

それから、キルギスのガリーナ先生のご報告では、まずスライドの投影だけでなく音楽がでてきたことにビックリされた方もいたかもしれません。源氏物語というのにも興味深いなあと思いました。今回は時間の問題もあって省略もありましたけれど、こんなにあるのかというほどの漢字学習や指導の問題点が列挙されていたかなと思います。また、ガリーナさん自身の学習者という視点から漢字の学び方や教え方というのを考えて教材を作成されたことも興味深いと思いました。

日本で教育を受けてきた人にとっては、どうしてそこまで分解して、どうしてそんな教材が必要なのだろうかと思議に思った方がいらしたかもしれませんが、レベルも高いところまできた人の経験は、やっぱり示唆に富んでい

ると思います。

また、列挙されていた問題は、すべてを一つの教材で解決できるわけではありませんが、それを和らげる、一つ二つなくすることはできるかもしれません。教師としては、そういった選択肢をもつのがとても大事だろうなと思います。

最後は、イタリアのトリニ先生です。時間がなくなってしまうのはとても残念でしたけれど、まずは単漢字、つまり、漢字一文字一文字をどうやって学ぶのかという視点から、もう少し広く捉えようということが最初の提起だったと思います。漢字が複数並べられているとき、どのように理解していくのかという点です。ここにいらっしゃる方は、皆さんもう大人だと思えますので、もう何年も前、何十年も前の学習経験について覚えている人はたぶん少ないかなあと思いますが、昔どうやって勉強したかを思いだし、または自分の子どもたちがどうやって勉強しているのかを考えながら、漢字の勉強の仕方を思い起こすといいかあと思いました。

また、読解というキーワードから、どのように読んでいくのかというプロセスについてもお話をいただきました。これは最初の加納先生の講演にもあった用法につながっているのかなあと思います。

それぞれの先生方のお話は、別々の視点から用意されたと思いますけれど、漢字の形、読み、意味、用法それぞれにおもしろさと難しさがあるということがわかりました。

そして、このような報告を聞きながら、いま述べたような感想をもったのですが、加納先生の講演の最後のほう

で、「漢字学習の道は、はてしなく続きます」と書いたスライドがありました。はてしなく続きますし、たぶん日本で教育を受けて立派に成人した皆さんも、きつとまだ続いているのではないのでしょうか。学習者がその道をどのように進んできたのか、また、遅々として進まない日々を過ごしたのか、喧嘩したり、または走ったりしたのか、走って駆け抜けてきたりしたのか、その道のりの過ごし方について、私は興味をもちました。

私のコメントは以上で、このあとはディスカッションになります。漢字学習にはさまざまな困難点があることがわかりましたが、ディスカッションでは、いま報告してくださった先生方が、漢字を学習する人として、漢字学習を続けてこられた理由、または漢字学習のどんなところが楽しかったのかについて聞きたいなあとと思います。

せっかくの休憩時間ですが、報告者の皆さんには、休憩の間、心の準備をしていただければと思います。私からは以上です。ありがとうございます。